

家庭教育支援協会

会報誌 第8号

今年度に行われた活動を抜粋してご報告申し上げます。
 詳細につきましては、総会資料に掲載しますので、そちらをご覧ください。

活動報告① かながわコミュニティカレッジ

2014年10月

平成26年、10月第1週から第5週までの計5回に渡り、横浜市の神奈川県活動サポートセンターにて、家庭教育支援協会会員による講座が開催されました。今年度は、家庭教育を理論的に分析した講座と、体験に基づいた実践的講座という二方向からの講座を市民のみなさまに提供させていただきました。

働く母親の抱える育児や介護に関する率直な悩みをみなさんと共有した講座や、思春期を迎えるお子様の問題行動を真正面から見据えて問いかける講座、父親の家庭教育へのかかわりかた、生活に潤いを添えるアロマセラピーの基本的知識、ケアの哲学的考察から家庭教育の在り方を考える講座等、今を生きる私たちにとっての家庭教育について、わかりやすく、より深く、すぐに実践できる講座を開講させていただきました。受講生のみなさんからは、



「家庭教育と香育」では実際に香りを体験

日付	講座タイトル	担当講師
10/2	「家庭からはじめるケアの極意」	二川早苗
10/9	「子どもの問題行動は子育てを見直すチャンス」	木村孝子
10/16	「家庭教育と香育 ～豊かな心と健やかな体を作る～」	松本美佳
10/23	「子育てを楽しもう」	青山利江
10/30	「家の変遷と家庭教育の変化」	平林直人



笑顔で講義される二川理事長

家庭教育への理解が深まったという声とともに、うちでもできそうだという嬉しい声もいただきました。

この講座は、家庭教育支援協会会員のみなさまの研修の場として、スキルアップの場としてもご利用いただいております。一人でも多くのみなさまに、家庭教育の重要性と、家庭教育に携わる楽しさが伝わればと思っております。次の機会に、あなたも来てみませんか。ご参加をお待ちしております

理事長 二川早苗

平成27年1月10日(土)、東京荒川区の「サニーホール日暮里」に於いて、会員研修会が行われました。新年早々にも関わらず、顧問の渡邊達生先生もご参加くださり、盛況に行われました。講師には、江戸川区で15年間、地域子育て支援拠点事業(「ひろば事業」)を展開されている、NPO法人ファミリーサポートセンター「東京ベーター」代表の森木美佐子さんをお招きし、「子育て支援の現代的役割」とは何か?を、「東京ベーター」の15年のあゆみに基づいて検証されたこととお話いただきました。



穏やかに話される森木先生

その中で印象的であったことは、「子どもの健やかな成長と共に、親を支援する事業」の機能強化型である「ひろば事業」として、

- ① 「お母さんをサポートすること、そのことが、とりもなおさず子どもをサポートすることになる」という運営理念を持ち、子育て親子の交流の場の提供と促進をされていること。
- ② 子育てに関する相談・援助も「ひろば」の重要な役割の一つであるが、年々、相談の内容に専門的な機関の支援が必要となってきている。そのため、関連機関との連携が一層大切になってきていること。
- ③ 地域の子育て関連情報をすばやく、且つ、正確に伝えることを心掛けていること。



家庭教育の活動の大切さを語る渡邊先生

また、「東京ベーター」の特徴として、

- ① ひろばに集う親が「講師」になり、それぞれの得意なものを披露してもらう場の提供。
- ② 地域のおじいちゃん、おばあちゃん、小学生までもがボランティアスタッフとしてサポートに関わっていること。特に、小学生は早くから小さい子どもとの触れ合い方を学べる良い機会となっている。
- ③ 運営するスタッフが常に「黒子」に徹し、ひろばに集う親子が主役の場になるように心掛けていること。



森木先生と渡邊先生を囲んで

以上を、実際の様子を写したスライドをTV番組で取り上げられた映像と共に、詳しくお話いただき、その活動の姿勢から、子育て支援をする者の「あるべき姿」を学ばせていただきました。

理事 中島佳世

活動報告③

～家庭教育支援 ワークショップⅡ～

2014年11月8日

平成 27 年 11 月 8 日(土)に東京・日暮里のホテルラングウッド内サニーホール日暮里にて、『家庭』を幸せにするワークショップをテーマとして開催されました。当日は、第一部では、日本フィットネス協会認定指導員である木村理事から今、話題となっているロコモ体操について、三つの運動方法を覚えて元気に歩ける足腰を維持し介護されない身体にするための説明と指導を受けて、実際に参加者で体操しました。

ロコモとは、ロコモティブシンドロームと言われる運動器症候群のことです。骨・関節・筋肉などの運動器の働きが衰えると、くらしの中の自立度が低下し、介護が必要になり、寝たきりになる可能性が高くなります。いつまでも元気であることが大切ということでした。

第二部のワークショップでは、引き続き木村理事により、「成長に合わせたほめ方、しかり方とは・・・」というテーマで講義していただきました。

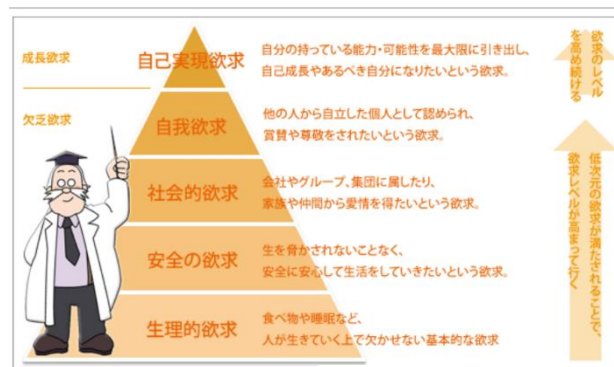
子育ての目標は、「一人前の自立した人間として社会に送り出すこと」を講義していただき、その後、参加者全員でディスカッションという形をとりました。参加者のアンケートでは「内容が充実していたので、大勢の方々に広報したかった。」「どうしてロコモ体操が必要なのかよくわかったうえで体操をしてくださったのでよかった。」などの声が寄せられました。



自己肯定感の高い子どもに育てる方法

1. どんな時も「あなたの味方」と伝える
2. 小さな成功体験を積み重ね、褒める
3. 頑張りを認める
4. 子どもの話を真剣に聴く
5. 感謝の言葉を伝える魔法の言葉「ありがとう」

(資料より抜粋)



マズローの欲求 5 段階説

活動報告④

～家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会～

2015年2月7日



平成 27 年 2 月 7 日 東京・水道橋の神田飴レックスビルにて、日本家庭教育学会主催による平成 26 年度家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会が開催されました。基調講演では、日本家庭教育学会理事長の筑波大学教授、佐藤貢悦先生のロボット研究と家庭教育との関係性とユーモアを交えたわかりやすいお話を伺うことができました。

その後、数名の会員の活動報告があり、当協会からは、京都在住の会員、石井登さんが、ご自身の 41 年間にわたる教育に携わられたご活動を通して、家庭教育の必要性やポイントなどお話をいただきました。

■講師／青山利江 『子育てを楽しもう』

「家庭は教育の原点」と言われるように、家庭の中では、子供にとって学ぶことが沢山あります。子どもの視線、親の視線から物事を見ることで、再発見することもあります。

また散歩や買い物などで親子のコミュニケーションをすることによって、こどもの自信や信頼関係も生まれてきます。体験した事は、身につくことも多いことがあります。

私自身、働きながら子育てや介護をしてきた経験から学んだことや気づいたことなどをお伝えしましたが、資料作成時にわからないこと、調べきれないことが多くあり、常に進歩しなければならないことが多くあり、研鑽する日々になりました。



青山理事の公開講座の様子

■講師／木村孝子 『子どもの問題行動は子育てを見直すチャンス』

かながわコミュニティカレッジと公開講座の講師を2年ぶりに務めさせていただきました。タイトルは「思春期のドロップアウト」と、以前と変わらないものでしたが、内容としましては「育て直し」に集中するようにいたしました。

崩れかけた親子関係を修復する方法としての「育て直し」は「子育て」と違い、「親子の信頼関係が壊れかけている状況」で、親が思春期に入っている目の前の子どもをあたかも小さな幼子を受け入れるようにありのまま丸ごと受け入れることから始まります。少年法が取りざたされる現在、マルトリートメントと「育て直し」の考え方や方法を今後も伝え続けてまいります。ありがとうございました。

■講師／二川早苗 『家庭からはじめるケアの極意』

本講座では、子育てや介護を通じたケアの在り方について、みなさんと一緒に考えました。ケアは、常に何かの対象を伴い、そこに欠けているものを補う行為です。つまり何もなかったところにケアは発生しません。さらに言えば、ケアされる対象は脆弱です。弱さを含んだ人へのケアは、まずその人の声に耳を澄ますことから始まります。どうすれば、その人のニーズを感得することができるのでしょうか。そう考えるプロセスが、自分自身の成長の軌跡になります。本講座を通してなされた活発なディスカッションが、参加者一人一人の成長の賜物と感じました。

■講師／石井 登 『子どもの健全な自立を目指して』

「子供の健全な自立を目指して」をメインタイトルに、第一回「社会環境の変化と求められる価値観」(平成27年1月26日)、第二回「脳の成長と学習」(2月2日)、第三回「健全な自立を阻害するもの」(2月9日)と題した公開講座を担当させていただきました。

普段、私の講義や講演では聴く者を飽きさせないことに心掛けています。受講者の見せる表情や雰囲気といった反応に応じて、雑談やジョークを織り交ぜ、時には話の内容までも変化させながら、話を進めていくのが私のスタイルです。今回は、カメラを相手の講義という初めての体験に緊張と戸惑いを感じながらも、会場で聴講いただいた方々に助けられ、何とか無事に終えることができたと思っています。

今回の公開講座を体験し、“カメラの向こうの見えない受講者”にどう向き合うのか、深夜ラジオを参考に、新たな講義スタイルに挑戦してみようと思いました。

このような貴重な経験を持つ機会を与えて戴いた家庭教育支援協会の皆様に心から感謝をしています。本当にありがとうございます。

「楽しく子育て♪あおい家庭教育学級」



熱心に講座を受講される皆さん

2月3日から毎週火曜、6回に亘り静岡市主催の家庭教育講座が開催され、初回と最終回を担当しました。

初回は「知っておきたい！子育ての悩み解決術」、最終回は「見つけましたか？子どもが伸びる家庭教育」と題し、小学3年生までの子供を持つ18名の母親の皆様を対象に子供へのアプローチ法、親の心構えをお伝えしました。

初回は、「認める」ことの大切さやその方法などをお伝えし、最終回までの35日間の宿題を出しました。そのうちの一つは「8秒ルール」と言い、一日のうちでいつでもいいので、8秒間子供をぎゅっと抱きしめることです。講座アンケ

ートには、この宿題がとても功を奏し、親子ともにイライラが収まった、父親と子供の触れ合いが増えた、下の子供にかかりきりだったのが、このルールで上の子の満足度が高まった、などといった感想を頂きました。参加された皆様がそれぞれ私のお伝えしたことをご自分の家庭で生かして下さったと嬉しく思いました。

最終回は、「親の力」に焦点をあて、子供に接するとき親がどうアプローチし、どう声をかければよいのをお伝えしました。その際、初回講座の後に集計した参加者の悩みや課題に呼応するよう、講座構成に留意しました。自分自身の体験を混ぜながらお伝えしたことで、参加者の皆様からは、身近に感じられた、理想論ではなく実践論なのでとても参考になった、といった感想を頂きました。

最後の質疑応答タイムでは、きょうだい喧嘩、習い事、生活習慣に関する様々な質問を頂きました。私だけではなく、当日協会からお越し下さった二川理事長、城条理事、田光理事にもお答え頂き、有意義な時間を共有できたと思っています。

この度の講座を通し、母親が抱える悩みが変化していることに気づかされ、私自身、大変大きな学びになりました。

理事 八木由紀

学会会員の皆さまへ～日本家庭教育学会 30周年大会のご案内

「今年大会 30周年という記念すべき節目を迎えて、会員皆様と一緒に「家庭教育」をもう一度顧みながら、未来に向けてどうあるべきかを考えてみる機会としたい」ということです。ふるってご参加ください。

開催日時：2015年8月22日(土)10:00～17:00

開催場所：倫理研究所2階ホール(全体会)、アメレックスビル(個人研究発表)

大会の内容

一午前の部：個人研究発表

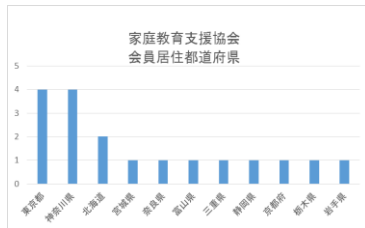
一午後の部：全体会

- ① 会長の記念講演。表彰(功労章)授与のセレモニー
- ② 全体ミーティング「家庭教育をどう推進するか——さまざまな提言から考える」

家庭教育支援協会 会員アンケート結果

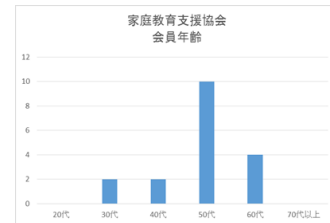
平成 26 年 12 月に、家庭教育支援協会に所属する 55 名の皆様に会員の状況把握を目的としたアンケート調査を実施させていただき 18 名から回答をいただきました。

1. 居住地域



※関東に住む会員が多い。

2. 年齢層



※50代の会員が多い。

3. 会員のアドバイザー・家庭教育師の資格所持(複数回答可)

家庭教育アドバイザー	13名
家庭教育師	13名
両方なし	2名

※ 家庭教育アドバイザー・家庭教育師の両方もしくはどちらかを持っている会員が多い。

家庭教育に興味関心があって入会された方も存在する。

4. 会員の従事されている仕事・今後の希望など

仕事やボランティアの内容では、人と接する機会が多いと思われるものが大半である。

会員が従事している仕事は、行政職、看護師、教員、セラピスト、フィットネスインストラクター、電気設備設計、ホームページ制作、データ入力、家庭教育講座講師事務 他。

会員が従事しているボランティアは、民生児童委員、障害児支援、高齢者支援、地域役員、学校役員、男女共同参画活動、児童養護施設訪問、施設卒園者の自立・自律支援 他。

ご自身が今後取り組みたいことでは、地域活動への参加や、更に勉強への取り組みを検討している会員が多い。このことから、家庭教育支援協会へ、研修会の開催など勉強する機会を求める希望が多かった。また、ネットを利用した会員間のコミュニケーションへの期待がある。それぞれ、地域での活動を望む会員が多い一方で、今後については現在検討中であるとの声も多かった。

以上、会員アンケートの結果です。会員の皆様、ご協力ありがとうございました。皆様からいただいた声を、今後の活動に活かして参ります。

～事務局から～

家庭教育支援協会の総会も第 5 回目を迎えることができました。昨年度は、会員アンケートの実施により、会員の皆さまのご意見を直にいただき今後の方向を考える良い機会となりました。また、活動面においては行政からの問い合わせや講習会の依頼があるなど、活動の幅も広がってまいりました。今後、ますます多方面からの依頼も考えられることから、各方面に存在する会員の皆様のスキルアップが必須です。会員間のコミュニケーションを図り、必要なスキルを身に付けられるよう研修会などを検討していきたいと思っております。ご意見等ありましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。